

S S K P

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます



いずみ

No.
179

2015年12月

社会福祉法人 泉会

泉会事務局 〒157-0073 世田谷区砧8丁目31番3号 メゾン成城202号 TEL03(5429)6721(代) FAX03(5429)6722
info@izumikai.jp http://izumikai.jp/

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇一五年十一月六日発行(SSKP通巻六一七五号)

●本年度の聖句

わたしは神が宣言されるのを聞きます。
主は平和を宣言されます
御自分の民に、主の慈しみに生きる人々に
彼らが愚かなふるまいに戻らないように。
(詩編85編9節)



群馬 1 泊旅行～リンゴ狩り(就労日の出舍)



ラグビーの日本代表チーム



理事長 佐分利 正彦



高校時代の友人の一人がラグビー部に所属していました。当時としては大柄なその友人の試合を応援に行つて以来、ラグビーの試合を観ることは50年越しの趣味となっています。

そして、この秋のイギリスで行われたラグビー・ワールドカップにおける日本チームの活躍によって、ラグビーが俄然注目されるようになりました。4年前の大会では一勝もできずに予選で敗退したのに、今大会では予選グループで、世紀の番狂わせとも称される南アフリカ戦の勝利を含めて三勝したので、注目を集めるのも当然でしょう。

オーストラリア出身の監督がマスコミに紹介されました。体と体をぶつける競技であることから、各選手の肉体を鍛えたことは当然のこととして、さらに精神面でも自信を持つてプレーするように指導しました。ミスをしたことよりも、チームとしてミスの影響を最小限にすることを重視しました。そして、戦術を磨き、さらに強い相手と実戦を重ねて経験を積みました。

ラグビーの日本チームのメンバーの出生国は様々です。日本国籍を持つ人たちはばかりではありません。しかし、ある新聞の投書が指摘していたように、こうしたメンバー構成こそが今後の日本の在り方を示唆しているように思えます。高校時代の友人は、今回の結果を見ることなく、10数年前に亡くなりました。次回のラグビー・ワールドカップは日本で開催されますが、東京近郊での試合を友人の分まで観戦したいと考えています。



泉会と私

橋本 治一

私は1965年4月から1年間、新宿の戸山町にあった身体障害者更生指導所（通称・国立身障センタ―）に2級の身体障害者として入所していたが、障害者の就職が今よりはるかに難しい時代であり、「センタ―」を修了した後に短期間にせよ授産施設である「泉の家」へ入る人が、当時はかなりいたように思う。

私も泉会のことはいつも身近に感じていたのであるが、直接関わりを持つことになったのは、1997年に理事に任じられて以来である。理事会では、常に自分自身が障害者であるという立場から考え・発言することを中心がけてきたつもりで、それは理事を辞任したあとに携わつて来た「いずみ友の会」の役員会においても同様である。

泉会発足当時と比べれば、身体障害者に対する一般社会の理解度は格段に進んでいるが、そのためにかえつて安易に対応するようになっている恐れもなしとしない。障害者はその障害の種類や程度はもちろん、性格や生まれてから現在に至る環境によっても一人一人異なることぐらいは少し福祉を学んだ人なら皆心得ていると思うが、いわゆる「健常者」がいくら経験を積んだとしても、「障害者」の気持ち completeness に理解できると思つたら間違ひである。むしろ、自分にはわからないのだということを肝に銘じるところか

ら、本当の対応ができると言えるのかもしれない。

私は理事の任期中はできるだけ機会を作つて利用者の人たちと交わり、必要があれば彼らの気持ちを理事や職員達に伝え、ときには理事や職員の意向を利用者たちに説明することにも努めた。幸いにも言ううか、私は理事の任期中、週一回泉の家に通う仕事を与えられ、その日は作業場における朝の体操とその後、職員顔合わせから始まり、昼は利用者にと混じつて同じ食事を摂り、昼休みを共に過ごし、年一度の泊親睦旅行にも2回ほど参加することを許された。最近の事情は知らないが、泉会のような施設においては「役員」の中には、できるだけ「障害者」を加えてほしいと思つている。



はじめまして

嵐 巖



五、六年毎に変な夢にうなされて冷汗をかいて目覚めていました。それは、ドイツ語のテストに悩まされる大学時代の夢でした。

ここ数年そんな夢をみなくなつたと感じてた矢先に「卒業60周年同級会」の通知が届きました。

過ぎ去つた60年、早かつたのか遅かつたのか？22歳で卒業した私が82歳を迎えています。

今年8月「泉会」友の会の役員に推されて、泉会が開設60年と知りました。

60年を無為に過して隠居を決め込んだ私に比して、過ぎた60年を土台として更に充実した福祉法人に成長しようとする「泉会」の姿勢に感動しています。

会を利用する方、それを支える

役職員の方々に僅かでも力になれるなら、老骨に鞭打ちたいと思ひました。

オリンピック、パラリンピックの東京招致に活躍された義足のプレーヤーの佐藤真海さんの講演の中で「アブノーマル ポーシブル、すなわち障がい者のリハビリの中で、職業訓練や趣向と才能に応じたそれぞれの選択で学び、障がいを克服された方々を社会に還元してタックスペイヤー（納税者）に仕立て育てる取り組みを、是非この日本にも充実させて欲しい。」との訴えがありました。

泉会、60年の努力も、将来の目標も、将にそこにあるのですね。

開設60周年、おめでとうございます。

（嵐巖様は、橋本様の後任として、友の会内田会長の推薦により役員に任命されました。熱心なクリスチャンの方で、泉会の活動にご理解いただいています。）

第7回成城音楽祭 （チャリティコンサート）のお知らせ



日程…2016年2月26日（金）

時間…午後6時30分開演

料金…無料

場所…成城ホール電話03・3482・1313

内容…第1部 男声合唱

第2部 ヤンチン（揚琴）

主催…泉会後援会いずみ友の会

東京成城ロータリークラブ

社会福祉法人泉会

後援…世田谷区に依頼

第1部 出演「三月会」

早稲田大学コール・フリーゲルルのシン

アOBが、2000年結成。2009

年3月4日に開催された第13回シン

ア合唱フェス

ティバルで

最優秀賞

（厚生労働

大臣賞）を

受賞。

その他精力

的に演奏会

やコンサー

トを毎年開



第3回成城音楽祭、出演の写真

催している。
指揮者 岡山尚幹氏・遠間拓平氏
ピアノ 畑 真理
会員は、60名程。

第2部、出演「グオ・ミン（敦敏）」

中国音楽家協会・国際ツインバロム協

会・日本打弦楽器協会理事他。

広州音楽学院にて音楽教育を受け

系統的な揚琴

の奏法を学

ぶ。広東民族

楽団に入団、

『全国民族

楽器ソロコン

クール』で優

勝、『羊城音

楽コンクール』他数々のコンクールで入

賞。中国トップの若手演奏家による

特別編成グループに参加高く評価さ

れる。中国を訪問した英国エリザベス

女王、米国レーガン大統領、ブッシュ大

統領など世界各国首脳の前で演奏

を披露し好評を得る。1987年来

日。NHK「花の舞台」「名曲アルバ

ム」などのテレビ出演、映画音楽

（『チャイナシャドー』『金田一少年

の事件簿』）、CM音楽（ライオン、JR東



勝、『羊城音
楽コンクール』で優
勝、『羊城音
楽コンクール』他数々のコンクールで入
賞。中国トップの若手演奏家による
特別編成グループに参加高く評価さ
れる。中国を訪問した英国エリザベス
女王、米国レーガン大統領、ブッシュ大
統領など世界各国首脳の前で演奏
を披露し好評を得る。1987年来
日。NHK「花の舞台」「名曲アルバ
ム」などのテレビ出演、映画音楽
（『チャイナシャドー』『金田一少年
の事件簿』）、CM音楽（ライオン、JR東

《プログラム》

第1部【三月会】

1. 黒人霊歌
2. アメリカ愛唱歌
3. 男性合唱組曲

「月光とピエロ」

第2部【グオ・ミン（敦敏）】

1. 紅河的春天
2. 草原賛歌
3. 夜来香

その他 *6曲程度

※成城音楽祭は、泉会の活動を広く知つていただく機会として毎年、世田谷区の成城ホールにて、いずみ友の会や成城ロータリークラブと共催で行っています。

今年も、多くの方が来場されますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

泉会60年の想い

泉会の未来に期待する

1997年～2001年

元理事長 佐伯 邦男



戦後世田谷区にあつた旧陸軍病院から、白衣姿の傷病兵が街頭に出て、アコーディオン

を弾きながら募金を訴える姿がよく見られた。人々は複雑な思いで募金に応じたり、無視する人もいた。病院にいても十分な収入があつたわけでは無かつたのだ。買い物姿の年配ご婦人がよく小銭をいれていた。

方々で見られたが、あまりにも痛ましくてこの人達の前を通り過ぎるのに嫌な思いもあつた。泉会設立の先輩たちは、この状況を見ておれ

ず、授産施設を立ち上げたのが始まりであつた。戦後70年、泉会設立60年と言うから、戦後の全てが混乱の時代によく設立出来たと思う。

泉会設立の砧教会牧師浅野順一、上遠章、初期の入所者のキリスト教詩人島崎光正、看護婦で後に結婚した島崎キヌ子、が私の先輩でもある。私は民間会社に勤務していたが、先輩に依頼されて定年退職後、町田市から岡本に転居し泉会の理事長としてしばらくお手伝いをした。生産会社の経営とは異なると思ったが、人間関係を扱うという点では多くの共通点を発見して、またこのことでしか学べない事柄も多くあり、苦勞もしたが私のその後の人生観にも不思議な影響を与えられた。このことは深い感謝と懐かしい思い出となっている。

初代理事長浅野順一牧師をしのびつつ

1988年～1996年理事

元理事 内田 文二



その頃、私は、社

会人として歩み始

めたばかりでしたが、学生の頃から入会していた基督教共助会（信仰・使命・交わりの団体）に、浅野順一牧師（泉会初代の理事長）、上遠章氏（泉会二代目理事長）も共助会会員として参加しておられました。特に浅野先生は著名な旧神学の研究者でもあり、講演会やキリスト教伝道雑誌『共助』の誌上座談会等で接し、多分に指導を受けてきました。

1960年代に入つて、「実践にならない信仰は真の信仰ではない」と教えて来られた先生は、30年以上も牧師として来られた美竹教会の主任教師を退かれ、新たに泉の家に近い

今、外から見て感ずる泉会は、社会福祉法人として素晴らしい経営をしておられると思う。4つの事業所がそれぞれの特徴を生かし、地元に着した活動をされている。時折載く情報誌「いずみ」は、全面カラー印刷になり、紙面は利用者を中心とした明るくて暖かい編集で全部読んでいます。利用者、ご家族、ボランティア、職員、理事会、友の会の自由で温かい交流の賜物と思う。日本の福祉はまだ十分だとは言えない。泉会もこれから考え改善することは山ほどある。泉会がモデルとなり、先頭に立つてより良い福祉の世界を先導してほしい。

『温故知新』

2001年～2013年

元理事長 橋向 敏治



泉会が60周年を迎えましたこと誠にめでたく、お慶び申し上げます。50年史を発刊

したばかりと思つておりましたのに月日の過ぎ去る速さに驚いております。

論語に「温故知新」とありますが、泉会の歴史を振り返ること、故（ふる）きを温（たず）ねて、新しきを知ること、この節目に当たり大切かと存じます。

私が佐伯邦男元理事長から泉会の経営を引き継いだのが2001年であり、福祉事業が措置制度から福祉経営に転換する時期でした。施設運営から施設経営へ、措置委託制度の施設利用者の管理、保護監督から、支援契約制度の利用者主体に精神的にも、社会的にも、自立出来ることを願い、本人の望む地域で自由に生活が可能な支援に180度転換しました。この経営改革推進に対応するために取り組んだことの第一は、泉会の経営理念と経営基本方針を創設することでした。第二に福祉経営について施設職員と共に研修会を通じて学ぶことに力を注ぎました。第三に職員行動規範の作成と人事制度の導入です。当時奥村

き受けております。いずみ友の会では、

会員からの寄付を障がいのある方々のために使つていただけるように毎年泉会に寄付をしています。長年支えてくださった会員の高齢化もあつて年々会員数も減り寄付金も少なくなつて

いる現状があります。今度で7回目となりますが成城ホールでの音楽祭を企画し、音楽を通して障がいのある方々への理解を深めて頂き、募金活動もいたします。

今後も泉会が発展し続けるようお祈りしております。



清里での共助会研修会にお招きした時の写真です。
（中央浅野先生（右）内田様）

日の出舎だより

木工活動

日の出舎では入所者の日中活動として平日の午前中に陶芸、趣味アート、木工、学習、読書などの活動を行っています。

今回はその中の木工班の活動を紹介させていただきます。木工班では、主に木片を使い、利用者一人ひとりがそれぞれ丁寧に磨きをかけ、その木片で絵文字並べの作品を作っています。完成した作品は保育園や幼稚園に寄付しています。

昨年、日も出町内の保育園に数名の利用者の方々と一緒に届けに行き、園児たちから大変喜ばれました。

これからも地元の福祉施設と

して、利用者の方々が地域の方々と交流を持ち、施設としても様々な社会参加に繋げてゆければと思っています。

（堀江 光）



製作された品

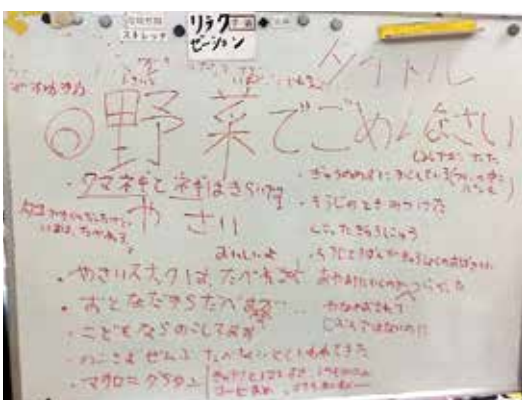
岡本ホームだより

野菜でこめんなさい

「野菜でこめんなさい」とは不思議なタイトルだと思いますが、給食はたまたま、園芸の話とは違います。正解は…音楽グループで創っている詩のタイトルです。毎年、趣向を変えながら色々な事に挑戦している音楽グループですが、今年は、作詞に挑戦しています。（ちなみに昨年は、「ゆず」というアーティストの「また逢える日まで」という曲を楽器やiPadなどを使ってレコーディングしCDを作りました。）発表会当日は、ピアノの演奏に合わせて皆で朗読しようと考えています。作詞の方は、まず利用者さんからキーワードとなる言葉をたくさん出してもらいます。そして皆で話し合ってもらいその中から気に入った言葉を一つ決めてもらいます。その後は、連想

ゲームをしながら感じたことや思ったこと、今まで経験したことなどを発表してもらいます。ある利用者さんからは、「僕は、ホウレンソウを食べれない。ポパイは、どうして食べれるんだろ。僕も強くなりたいのに。」といった、とってもユニークな発表もありました。その他にもユニークな発表がたくさんありました。このコラムが掲載される頃には、詩も完成していることでしょう。どんな詩が完成するのかと、今からワクワクが止まりません。

（関口 友則）



ユニークな発表がいっぱい

玉堤分場だより

「目的別グループ外出」

玉堤分場では1年に3回、グループごとに外出します。今回は「ボーリング」「カラオケ」「映画」の三つのグループに分かれて外出しました。行き先や昼食の場所は、利用者の皆さんが考えて決めます。

また、グループ外出の日程に合わせて、ガイドヘルパーの実習生が年に2回、研修に来られます。公共交通機関を使って移動し、その際にどのようなことに配慮が必要なのかな



熱い思いをこめて！

ど、一日を通して学んでいただいています。利用者のみなさんにとっても、普段接することのない人との外出は、良い刺激となっているのではないのでしょうか。

職員にとっても、分場の中とは違ったみなさんの表情を見ることが出来る貴重な時間でもあります。ボーリングでストライクが出た時に、みんな喜んでハイタッチをしたり、カラオケでは、振り付けまでして熱唱したり、映画では声を出して笑ったりと、とても笑顔の多い楽しい外出となりました。次回の外出もまた報告させていただきます。

（津島 将次）



チームワークが光ります！

泉の家だより

施設公開行事 オープン・ザ・ドア

『どうしてここには障がいのある人がたくさんいるの？』体験コーナーで編んだミサンガを手首に着けてあげていると、その女の子は言いました。彼女は小学一年生。勉強や友達と過ごす時間を楽しみに学校へ通っているそうです。『障がいのある人も学校へ通って、卒業したら、泉の家の様な施設へ通って色々な活動をしたり、お仕事をしているんだよ。』と、悩みながら伝えました。すると、『そっか！そうだね。わかった！』とパツと明るい笑顔を見せてくれました。彼女がどんな解釈をしたのか、私は何と答えるべきだったのか、今もわかりません。しかし、彼女の『当たり前のこと』に気が付いた『というようなスッキリした表情に、利用者の方と泉の家について、少しでも理解していただけたのではな

いかと感じています。更に、展示コーナーを覗くと活動紹介の展示に顔を近づけて熱心にご覧になっている方々の姿がありました。地域で暮らす利用者の方々と、地域で活動する泉の家について、地域の方に知っていただくということは利用者の方々の暮らしやすさに繋がっていると思います。日頃より活動を支えて下さっているボランティアの皆様やご家族のお力をお借りして、今年の施設公開も利用者の方々とご来場者の皆様の笑顔が溢れる一日になりました。ご参加、ご協力いただきました全ての方に感謝いたします。ありがとうございました。

（石黒 玲奈）



カフェのテラス席も大盛況！



『入所施設からの自立』について

相談日の出舎（特定相談）は、地域にお住まいの方（施設も含む）の計画相談（個別の支援計画）を行っています。日の出舎（施設入所支援）の利用者の計画相談も行っています。その中で、「自立」をご希望されている利用者3名にお話を伺いました。

A様「一人で生活したい。」

B様「地元で家族と、あるいは家族の近くのアパートで生活したい。」

C様「地元で一人暮らし、できれば結婚もしたい。」

以上の様に「一人暮らし」が3名共通のご意見です。自立の標準辞書の意味は、「自分だけで物事を行う。」事です。利用者のおつ

しやる通りとなります。

近年の障がい者福祉の動向は、入所施設からグループホーム（GH）、或いは、家族のもとへ、一人暮らしへの推進を謳っています。いわゆる「自立促進」です。

しかし、アパートでの一人暮らしと言っても、生活費用や介助面・通院等で不安が残り、一歩前へ進むことができない実情があります。たとえ、費用面が解決されたとしても、一日中介助者が居る訳ではありません。障がい等の区分等により一週間の介助時間が決まります。地域によってはそのサービスの時間や内容の違いはありますが、その方に合うサービスが受けられない現状も少なくありません。相談支援事業者は、その希望に沿うべくあらゆる媒体を使って対応をし、計画を作成します。地域で自立している方の計画も立てる訳ですから、自立をしている実情もわかる事となります。3名の方にその実話を話してみました。

A様「目標は一人暮らし、その前にGHでの生活を経験したい。」

B様「できる限り自分でできるこ

とを増やし一人暮らしをしたい。」

C様「もっと友人やボランティアと交流して自立に繋がりたい。」

3名の利用者は、「自立」に向けた、より将来の生活目標を持つ事となりました。

その後、A様は、自らGHいずみで生活している利用者とお話したり、B様は、リハビリを、C様は、早速友人と外出する等、その具体的第一歩を踏み出しているようです。

特定相談支援事業者として、相談日の出舎の役割は、生活するうえで必要な計画（サービス）を作成することは勿論のこと、施設自立に関わる相談事業者である、一般相談支援事業や生活支援・就労支援事業とも連携しつつ、それぞれの地域の保健・医療・福祉及びご家族（保証人）や関係諸機関と連携しながら、ご本人の希望が実現できるよう、計画相談を実施していこうと再確認しました。

また、他の施設入所利用者も「自立」が目標となるようお願いしつつ。

（相談日の出舎）

* 社会福祉法人 泉会 *

法人本部 泉の家	〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号 ☎03(3417)3451(代) 03(3417)3463 izumi@izumikai.jp	岡本福祉 作業ホーム	〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号 ☎03(3415)3366(代) 03(3415)4976 okamoto@izumikai.jp
日の出舎 就労日の出舎 相談日の出舎	〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番 ☎042(597)1451(代) 042(597)2205 info@hinodesha.org	相談支援センター おかもと 玉堤分場	soudan-okamoto@izumikai.jp
グループホーム いずみ グループホーム のぞみ	〒197-0825 あきる野市雨間322-12 ☎・042(550)9083 〒197-0804 あきる野市秋川2-3-1 ☎042(533)3608 042(533)3609		〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号 ☎03(5707)9431(代) 03(5707)9433 tamatusumi@izumikai.jp

編集後記

12月になり、今年も残りわずかとなりました。この時期は毎年来年の目標を立てるのですが、達成できたり出来なかったり、皆さんはいかがでしょうか？ 日の出舎担当